



Dr's Interview.1

歯科インプラントの原点と本来の 治療目的

小宮山 彌太郎 先生
(こみやま やたろう)

- プロネマルク・オッセオインテグレーション・センター院長
- 東京歯科大学臨床教授
- 日本補綴歯科学会副理事長

Dr's Interview.2

セカンドオピニオンの有効活用

松下 恭之 准教授
(まつした やすゆき)

九州大学大学院歯学研究室
口腔機能修復学講座
口腔生体機能工学分野准教授

Special Report

OJ主催 第2回都民フォーラム

歯を失う原因とインプラント治療
～条件の違いによる適切な治療方法～

歯科インプラント治療の健全な普及を目指す日本最大級の歯科臨床医による研究グループ「OJ」により開催された、一般の方対象の都民フォーラムを取材。大学教授および開業歯科医師らによる講演やパネルディスカッションが行われ、インプラント治療や口腔ケアについて、理解を深めるイベントとなりました。



Vol.2

安心して歯科インプラント治療を受けるために

失った歯とその機能を回復する治療方法として、主に入れ歯・ブリッジ・インプラントが挙げられます。中でもインプラントは噛む力を取り戻し、見た目にも自然で美しいことから急速な普及を遂げていますが「本当に自分に適した治療方法なのだろうか。」「確かな治療技術で信頼のおける治療をおこなってくれる歯科医院の選び方がわからない。」このように感じている方も少なくないことでしょう。弊社が運営する患者様総合相談窓口にも、同様のご相談が寄せられています。

今回のニュースレターでは、インプラント治療の原点・治療目的、そして歯科医院選びの有効な方法であるセカンドオピニオンについて、インプラント治療のスペシャリストである二人の歯科医師にお聞きしました。また、歯科医師らの研究グループによる取り組み・都民フォーラムをご紹介します。お悩みを解決するヒントとなり、安心して治療を受けていただけるよう、さまざまな角度からの情報を発信してまいります。

株式会社ガイドデント
代表取締役社長 石井 貴久

ガイドデントについて

国内唯一の歯科分野における第三者保証機関として、「インプラント10年保証」および歯科医療における保証サービスを提供。患者様と歯科医療機関の間に立ち、安心した歯科治療選びのパートナーとして、これから治療を受ける方、そしてすでに治療を受けられた方により安心していただける環境を提供して参ります。

「インプラント10年保証」のサービスが受けられるガイドデント認定歯科医療機関は、全国に563施設あります。(2014年7月31日現在)

会社概要

株式会社ガイドデント
東京都渋谷区幡ヶ谷1-34-14 宝ビル3階
(2011年11月(株)アイジーエスより事業承継)
TEL 03-5790-5260 / FAX 03-5790-5267

【設立年月】2011年8月
【事業内容】
インプラントおよびその他医療における保証業務
医療・健康分野におけるコンサルティング業務
マーケティング、広報支援業務
患者向けインプラント総合相談窓口
(グローバルインプラントサポート)

歯科インプラントの原点と本来の治療目的

小宮山 彌太郎（こみやま やたろう）先生

- ブローネマルク・オッセオインテグレイション・センター院長
- 東京歯科大学臨床教授
- 日本補綴歯科学会副理事長



近代インプラントの祖であるブローネマルク教授に直接師事し、ブローネマルク法を日本に紹介。世界中に8ヶ所あるブローネマルク・センターのひとつとして、診療および歯科医療従事者の育成に尽力されています。

Q 小宮山先生は現在普及している歯科インプラントの手法を本場スウェーデンで習得されましたが、そのきっかけは？

小宮山先生：きっかけは、今でも鮮明に覚えています。ある患者さんからの一言でした。大学病院で勤務していたある日、義歯を希望される患者さんを担当しました。他院で何度も繰り返し作り直したけれども合わなかったそうで、ストレスをお持ちの様子でした。大学院では、補綴学（ほてつがく）*を専攻していましたので、力を入れて義歯を作ったところ、今回のものは快適だと喜んでいただけたのですが、次の来院時におっしゃった一言が今でも忘れられません。「先生、この入れ歯はとても良く出来ていますが、自分の歯とは、やはり違いますね。」

他の患者さんにも可撤性補綴装置**の使用感をお聞きすると同じような返答が得られ、患者さんによってはその装置の限界を感じました。そのような時、ブローネマルク教授らによって発表されたインプラント治療に関する有用性を検証した『10年経過報告』を目にしました。縁がありスウェーデンへの留学の機会に恵まれ、本格的にインプラント治療の研修を始めることとなりました。

Q ブローネマルク教授の教えとはどのようなものだったのでしょうか？

小宮山先生：インプラント治療は、まず外科手術で顎の骨とインプラントをしっかりと結合させた後、人工の歯を10年、20年、30年と長期に渡って良好な状態で維持していくために、補綴学の技術と学識が必要となります。留学中は、ブローネマルク教授から外科手術をはじめ全てのことを徹底して教えていただきました。1980年から1983年にかけてのことでした。

私が留学する以前からインプラント治療は日本でも臨床の場で行われており、学会などでも報告発表がされていました。しかしながらその内容は、臨床術式に重きが置かれた報告ばかりで、長期的にきちんと機能するかといった経過報告を含んだ基礎的研究報告が見当たらず、本当の意味での有用性を裏付けるには乏しいと感じていました。帰国後は、ブローネマルク教授の教えを忠実に守り、生体組織の治療機転を重視するブローネマルク法によるインプラント治療の普及と歯科医療従事者の育成に努めてきました。



院内に飾られたブローネマルク教授と

Q インプラント治療を検討されている方へ、アドバイスをお願いします。

小宮山先生：インプラント治療は適切に応用されるならば、長期間に渡りきわめて好ましい結果が得られる有益な治療であると確信していますが、歯科医師に勧められたからといって即決する必要はありません。セカンドオピニオン、サードオピニオンと言わず、多くの歯科医院を訪ねて治療について、詳しく相談してみてください。そうして多くの知識を得て、ご自身に適していると思える歯科医院と治療方法を選んでいただきたいと思います。

* 補綴学：歯が欠けたり失われた場合に、入れ歯、ブリッジ、詰め物や被せ物などを用いて機能性や審美性を回復することを目的とする歯学の専門分野。

** 可撤性補綴装置：取り外し可能な義歯、ブリッジなど

セカンドオピニオンの有効活用

松下 恭之（まつした やすゆき） 准教授

九州大学大学院歯学研究室

口腔機能修復学講座口腔生体機能工学分野准教授



九州大学病院では、他の医療機関に入院または通院されている方を対象にセカンドオピニオン外来が開設されています。医科では浸透しているセカンドオピニオン。歯科インプラントでの有効性や活用方法をお聞きます。

Q 歯科におけるセカンドオピニオンとはどのようなものですか。

松下先生：セカンドオピニオンは、他の医療機関に通院されている患者さんを対象に、現在の診断・治療に関する意見を提供することが目的で、患者さんの担当医による診療情報を基に、診断や治療方法などについて第三者の専門家が助言を行い、患者さんがより良い治療方針を決定するのをサポートします。

第三者に検査データを診てもらうことで、万が一、担当医の診断に間違いがあれば誤診を避けられますし、ほかの方法が見つかった場合は、より良い治療を受けるチャンスが増えることにつながります。また、担当医の診療方針に間違いがないとわかると、これまで以上に信頼を持って、安心して治療を受けられるという利点もあります。

慣れ親しんでいる歯科医師のすすめに従い、言われるままにインプラント治療を受けるというパターンを耳にすることがありますが、高度な技術を要し、費用も時間もかかる治療ですから、十分に理解しないままにインプラントを受けてしまうと、患者さんが望む結果にならなかったり、トラブルの原因になりかねませんので、注意が必要です。

Q セカンドオピニオンのとり方、活用方法を教えてください。

松下先生：セカンドオピニオンをとるタイミングは検査・診断後、治療がスタートする前が基本です。セカンドオピニオンをとる医療機関へは、担当医から出してもらった紹介状と検査データを持って行きます。そのデータをもとに、歯科医師が専門的な意見を出してくれるでしょう。このとき、疑問点や不安に感じていることは、どんなにささいな内容でも質問してください。聞いておきたいことを、メモして行くのもおすすめです。費用は医院によってさまざまですので、事前に確認しておくとういでしょう。



カウンセリングルームにて

セカンドオピニオンをとりたいことを担当医に言えないという患者さんがいますが、黙って別の医療機関で検査や診断を受け直すのは費用も時間も無駄になります。診断を疑っているようで、担当医に頼みにくいという患者さんの気持ちもわからなくはないのですが、医科ではごく一般的に行われていることですから、遠慮しないで申し出てください。迷っている気持ちを担当医に率直に話し、セカンドオピニオンをとりたいことを伝えましょう。

Q セカンドオピニオンを受ける上で注意すべきことはありますか。

松下先生：治療が始まったあと、また治療終了後のトラブルを相談する人が稀にみられますが、治療前の診断を第三者に仰いで、迷いなく治療を受けるためのものであることを理解し、活用してください。決して担当医の技術の善し悪しを評価したり、秘密裏にとるものではないことを念頭に置いておきましょう。セカンドオピニオンは治療内容を十分に理解し納得するために重要な仕組みであり、また、トラブルを避け、担当医との信頼関係を築ける非常に有用な方法ですので、歯科医療においても浸透していくことを願っています。

特集レポート：OJ 主催、第 2 回都民フォーラム 歯を失う原因とインプラント治療 ～条件の違いによる適切な治療方法～

歯科インプラント治療の健全な普及を目指す日本最大級の歯科医師による研究グループ・OJ* 主催の都民フォーラムが 2014 年 7 月 13 日（日）に日本歯科大学（東京都千代田区）にて開催されました。歯を失う主な原因である「虫歯」「歯周病」「外傷（ケガ）」のそれぞれにおいて、適切な治療方法を大学教授および開業歯科医師による講演と、パネルディスカッションがおこなわれ、インプラント治療や口腔ケアについて、理解を深めるイベントとなりました。フォーラム終了後は、現役の歯科医師らによる個別相談（希望者のみ）も実施されました。インプラント治療を検討されている方、インプラント治療を受けたけれども疑問や不安を持つ方など、フォーラム参加者の 3 割を超える方々が、熱心に相談されていました。

今年で第 2 回目となる都民フォーラムの開催にあたり、OJ 会長である鈴木真名先生は次のように述べています。

「インプラント治療は歯科治療の進歩とともに急速な普及を遂げました。しかしその一方で、一般の方に正しく理解していただくための情報が十分でないため、歯科医師との間に認識の溝があるように感じています。そこで OJ では、従来から取り組んできたインプラント治療の技術と組織の向上に加え、インプラント治療の有効性や安全性等を広く一般の方々に発信する取り組みを継続しておこない、QOL(=Quality of life、生活の質)向上、ならびに健康寿命の延伸の実現に寄与したいと考えております。」

【歯科医師による講演】

3 名の歯科医師が順に登壇。定められたテーマに沿って、データや写真を使いながら、わかりやすく解説しました。



- ◀ 【OJ 副会長・奥田裕司先生による講演】
歯を失う原因・虫歯
正しい処置で将来の歯の健康を守る！

【申基喆教授による講演】▶

歯周病患者でもインプラント治療
ができますか？



▶ 【高森等教授による講演】

事故・けがで歯を失った！歯の機能と
審美性を回復する適切な治療とは？



【パネルディスカッション】

参加者から事前に寄せられた質問を基に、座長の木原先生が進行を担当。パネラーの先生方がそれぞれの見解を論じました。



- ▲ 【パネラー】 向かって左から
OJ 会長・鈴木先生、奥田先生、申教授、高森教授



- ▲ 【座長：木原敏裕先生】

*OJ（オッセオインテグレイション・スタディクラブ・オブ・ジャパン）
2002 年に設立された歯科医師によるインプラント治療の研究グループ。
日本最大級となる 610 名の会員（うち、正会員 178 名）が所属しています。